就活対策
講座②

魅力的なエントリーシートを書く 10のルール

エントリーシート対策といっても、「結論から書く」や「箇条書きにする」といった表現テクニックはいわば枝葉。まず押さえるべきは、幹となり土台となる考え方です。土台がしっかり形作られていなければ、いかに華々しい体験をもとに名文を綴ろうとも読み手の心には届きません。このページでは、エントリーシートを書く前に知ってほしい考え方をお伝えします。

[RULE 1]
書く目的を意識する

まず意識してほしいのはエントリーシートを書く目的です。エントリーシートを書く目的は「サークルやアルバイト経験の自慢」や「漫然とした自己紹介」を書くことではありません。その目的は「自分がどれほど志望企業に適しているか（適性および能力面において）」を伝えることに他ならず、常にこれを意識することを忘れないでください。目的を理解しているかどうかで、自己紹介の文章を書く際に取捨選択すべき情報は大きく変わります。

[RULE 2]
企業を知る

とはいえ、「自分の個性や魅力といっても、どんな情報を書いていいのか分からない」という方もいるでしょう。それなら、社会や企業がどんな人材を求めているかを知ってください。
よく調べれば、求める人材（素養）のパターンは業界や職種によって一定の傾向があるということに気づくはずです。最終的には、志望企業が求める人材像を十分理解し、最適と考えられるあなたの特徴をPRできればベストです。

[RULE 3]
設問に答える

「なに当たり前のことを…」と思われる方もいるかもしれませんが、「設問にちゃんと答えられていない」方は少なくありません。例えば、「あなたが情熱を持って打ち込んだことを教えてください」といった設問に対する回答が単なるアルバイトやサークルの紹介になっていて、どこにも“情熱”を感じられる記述が見受けられないというのはよくある例です。この場合、「コミュニケーションのキャッチボールが上手くできそうか」といったところにまで疑問符が付きますのでご注意を。

[RULE 4]
設問の真意を考える

すべての設問には必ず意図があります。たとえ、突拍子のない設問だったとしても「適応力や思考の柔軟性を見る」といった目的があるはずです。「研究テーマを教えてください」という設問一つにしても、採用担当者が知りたい情報を想像すると「詳細な研究内容」「研究に対する姿勢」「専門的な情報を分かりやすく説明できるか」などが挙げられるでしょう。設問の一言一句を見逃さず、企業・採用担当者の意図をしっかり見極めてください。望まれない回答は、いかに名文であっても評価にはつながりません。

[RULE 5]
エピソードに頼らない

サークルやアルバイト、海外留学の体験談を漫然と書いたとしても、飛びぬけて優秀なエピソードでない限り、読み手にあなたの魅力を伝えるのは難しいでしょう。逆にエピソードがありきたりでも、そこから書き手の魅力が十分伝わってくるエントリーシートもあります。
1でお伝えしたように、エントリーシー

実践で完璧なエントリーシートをいきなり仕上げられる人は、まずいません。何枚も書き、見直しをすることでエントリーシートはより洗練されていきます。まだ一枚もエントリーシートを書いたことがなければ「まだ自己分析や企業研究が十分じゃないから…」などと言わず、とにかく一度書いてみることをお勧めします。自分に何が足りないのか理解したほうが、ゴールは近くなるはずです。

[RULE 10]
自分の将来を真剣に考える

会社選びはいわば生き方の選択。「どういったキャリアを築きたいのか」「何を成し遂げたいのか」一生き方が定まっていなければ、会社選びの根拠はやや心もとないものとなります。将来像が明確であればあるほど、会社選びの根拠は強いものとなり、志望動機にも厚みが出てくるはずです。「どの会社で働きたいか」を考える前に「どんな将来を描きたいか」を考えてみてください。

はありません。そういった嘘は多くの場合面接で見抜かれますし、万が一入社できたとしても、会社に入ってからも偽りの自分を演じ続けるのは至難の業です。また、その嘘が採用を左右する重要な要素だった場合、判明すれば採用取り消しの理由になります。

[RULE 8]
第三者の視点で読み返す

文章を書く際、客観的視点は大切です。エントリーシートの場合も読み手の立場になって、自分の書いた文章を読み返してみてください。「本当にこの書き方で、自分の伝えたいことが伝わっているのか」「自分では当たり前と思っているが、書くべき情報を省略していないか」自分の固定観念をできる限り取り払ってチェックしてください。もちろん、第三者に読んでもらうことも効果的なので、可能な限りそういった機会を作ってみてください。

[RULE 9]
場数を踏む

いくら情報収集や理論武装しても、

トを書く目的は「自分がどれほど志望企業に適しているか」を伝えることであり、エピソードはそのための素材に過ぎません。思い入れにとらわれず、目的を達するために最適な素材（エピソード）を選んでください。

[RULE 6]
誤字脱字、日本語表現の誤りは厳禁

「たった一つの誤字が合否を分ける」というのは、決して言い過ぎではありません。どれほど内容が良いエントリーシートでも、たった一つの誤字であなたの「仕事における正確性」や「志望企業への熱意」まで疑われかねません。エントリーシートを書き終えたら一息ついて、もう一度しっかり見直しをしましょう。

[RULE 7]
嘘、大げさ、紛らわしいはNG

当然ですが嘘を書いてはいけません。嘘といかないまでも、自分とあまりにもかけ離れた自己PRも好ましいもので